



SSKW親の会だより 増刊号

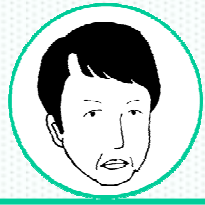
# 親の会会報

2024年9月発行  
No.126



Inclusion Setagaya

世田谷区手をつなぐ親の会



～障害福祉を  
支えるために～

会長 渡部 伸

## ■本当に持続可能!?

■障害のある人を支援する制度や仕組みは、この20年ほどで大きく変化しました。2003年の支援費制度導入、いわゆる「措置から契約へ」というパラダイムシフトが起きて、障害者の自己決定に基づき福祉サービスを利用できるようになり、その内容や運用も障害者のニーズに合わせて修正されたり、新しいサービスが生まれたりもしています。

■確かに制度は整ってきていますが、この仕組みは果たして持続可能なのか、子どもたちはサービスをずっと受けられるものなのか、大きな不安があります。財政難や人手不足の問題でどんどん福祉サービスも先細りになってしまうのではないかと…。

■そんな懸念をずっと抱えているのですが、最近読んだ書籍が希望の光を与えてくれました。

## ■ベーシックサービス■

～教育・介護・障害者福祉はすべて無料～

■『ベーシックサービス「貯蓄ゼロでも不安ゼロ」の社会』(小学館新書)、慶應義塾大学経済学部教授の井手英策氏の著書です。

■国のことは信用していない、満足な社会保障が受けられない保証はないから、投資をしてお金を貯めよう、増税なんてとんでもない…そのような、負担は少なければ少ないほうがいいという考え方では、福祉も質の低いものしか提供されない。そうではなく、全世代で負担を増やして信頼できる社会保障を築こうという考え方で、具体的には消費税を6%引きあげる、代わりに、大学教育や介護、障害者福祉はすべて無料、医療費の自己負担は2割、などの手厚い社会保障を実現すれば、すべての人びとが生活不安から解放される社会になる、というのが著者の主張です。

■似た言葉で「ベーシックインカム」があります。一定以下の所得の人を対象にした給付金は、もらえる人とそうで

ない人の分断化が起こりかねませんが、こちらは所得制限をつけずにすべての人に給付するので、そういった懸念はなくなります。ただし、富裕層もお金を受け取るようになります。

■それに対して「ベーシックサービス」は、サービスが必要な人が無料あるいは少ない負担額で受けられるもので、いない人にまでお金を配るような無駄はなくなるというものです。

## ■あきらめないことの大切さ■

■もしかしたら「消費税16%なんてとんでもない」「そもそも現実離れしているのでは?」といった感想を抱く方もいらっしゃるかもしれませんが。私もここに書かれていることすべてが実現できるとも考えてはいません。

■私がいちばん感銘を受けたのは、この本が提案している内容の斬新さはもちろんのこと、著者の「あきらめない」姿勢です。実はこういった消費税の使いみちについての考え方は、それに共鳴した政治家たちにより、何度か日の目を見る可能性がありながら、政治の複雑な力学により「ひねりつぶされ」てきた過去があり、その苦勞の末に生まれたものが「ベーシックサービス」という考え方だそうです。井手氏は「(一介の学者にはムリでも)最後まであがく」と述べています。

■何か不安なことがあれば、納得できないことがあれば、「しょうがない」で終わらせるのではなく、自分のできることをやってみる…その大切さを改めて突き付けられた気がしました。

■非常にざっくりとした紹介で、なおかつ私の勝手な思いまで書いてしまい恐縮です。もし興味をお持ちになりましたら、ぜひ手に取ってみてください。



## 親の会会報 No.126 コンテンツ



P2: 世田谷区の障害福祉について

P3: (一社)つながりラボ世田谷

P4~7: 日々の生活を積み重ねて “困ったなあ”

P8: 2024年度賛助会員